

総合評価落札方式（業務）評価項目に関する一考察

(財) 港湾空港建設技術サービスセンター 正会員 ○ 吉田 秀樹
(財) 港湾空港建設技術サービスセンター 入部 忠道

1. 目的

公共工事の品質を確保するため、平成17年「品確法」が施行され、工事においてはほぼ100%総合評価落札方式が導入されている。一方、業務において、平成21年度より本格的に総合評価落札方式が導入され、昨年、低入札対策としての加算式における価格評価点と技術評価点のあり方に関して報告¹⁾したところである。業務では、技術により焦点が置かれ、総合評価落札方式の技術評価の重要性は大きく、評価項目の設定および配点は非常に重要である。特に、実施方針とともに重要なのは、技術者評価である。

本研究においては、より業務の総合評価落札方式における望ましい評価項目設定、配点、評価のあり方について研究するものであり、本報告においては、技術者評価を中心に、技術評価の項目設定、配点を分析し、その一部として、優良表彰の効果および業務成績評価のあり方について提案するものである。

2. 評価項目の得点率・寄与率の整理と分析

(分析の対象) プロポーザル方式の技術者評価型からの移行の傾向が高く、技術者評価の性格が強い、以下の案件を対象とし、技術評価の順位に注目し評価項目を分析した。

・平成21年度「総合評価落札方式（簡易型 1:1）」 港湾空港部門 110件

(項目別得点率) 図-1 に技術評価1以下3位までの項目別得点率を示す。全般に得点率が高いが、優良表彰について低い。また、業務成績、地域精通度については、技術評価の順位と関係が深い。

(項目別寄与率) 図-2 に技術評価1以下3位までの項目別寄与率を示す。(寄与率=配点率*得点率)。業務成績、業務理解度の寄与率が高い。業務成績が、技術評価の順位と関係が深い。

(得点率・寄与率から見た評価項目に関する分析)

- 図-1, 図-2 の結果を表-1 にまとめた。
- ・技術者資格については、技術評価順位と逆の寄与率となり評価項目としての必要性は低い。
 - ・得点率差大、高寄与率の業務成績評価は技術評価順

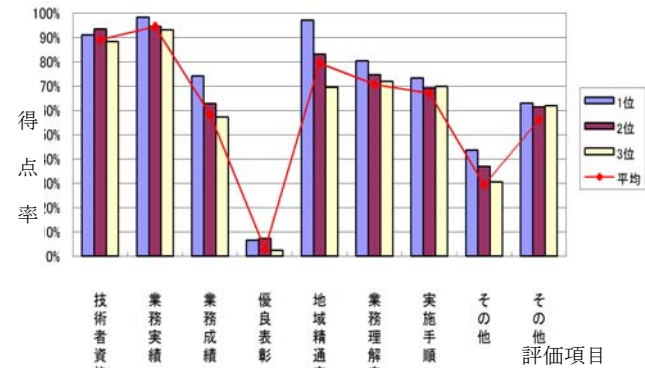


図-1 技術評価1位から3位までの項目別得点率

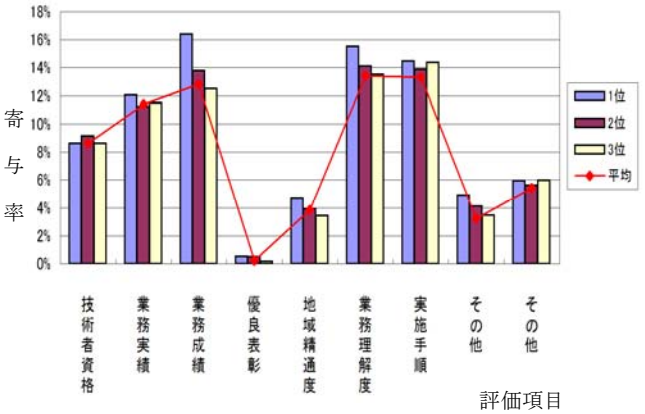


図-2 技術評価1位から3位までの項目別寄与率

表-1 項目別得点率・寄与率のまとめ

評価項目	得点率				寄与率			
	得点率(%)	高い	1位2位の差(%)	差が大	寄与率(%)	高い	1位2位の差(%)	差が大
技術者評価計	67	○	6	○	34	◎	3	◎
技術者資格	90	◎	-2	×	9		-0.5	×
業務実績	95	◎	4	△	11	○	0.8	
業務成績	58	△	12	◎	13	○	3	◎
優良表彰	3		0.4		0.2		0	
地域精通度	80	◎	14	◎	4		1	
実施方針	62	○	7	○	30	◎	3	◎
業務理解度	71	○	6	○	13	○	1	
実施手順	67	○	4	△	13	○	1	
その他	29		7	○	3		1	
記入の基準	◎ 80- ○ 60- △ 40-		◎ 10- ○ 5- △ 4- × 0<		◎ 30- ○ 10-		3- × 0<	

キーワード 公共調達、総合評価落札方式、業務、評価項目、成績評定

連絡先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-1 (財) 港湾空港建設技術サービスセンター TEL 03-3503-2803

位と関係が深く重要な項目。適切な業務成績評価必要。

- ・ 業務実績、地域精通度、実施方針も高得点率もしくは高寄与率で重要な項目。優良表彰は明確な差は無し。

3. 優良表彰と技術点との関係

2. おいては、優良表彰と技術評価に明確な差はなかった。そこで、優良表彰された者が管理技術者となる応札案件について、個別に技術評価と技術点順位との関係を調べ、表-2 と以下に結果を示す。

- ・ 全体の延べ応札者数に占める割合(2.2%)に比較し、技術評価1位(5%)、2位(4.9%)に占める割合が格段に高く、技術評価の適切な評価の実施を証明。
- ・ 技術評価順位との関係では、局長表彰、事務所長表彰は同程度に関係が深く、その他の表彰においてもある程度関係があり。
- ・ 表-1 より、得点率、寄与度は低いが、今後優良表彰件数の拡大・評価としての地方整備局から全国への拡大等積極的に優良表彰を評価項目として活用することが必要。

表-2 優良表彰対象者と技術点順位との関係

	得点割合	技術点順位						(者)	(者)
		1位	2位	3位	4位	5位	6位以下		
簡易型全体		126	106	89	80	70	143		614
表彰対象者数	100%	6	5	1			1		13
	60% or 50%	5	3	2					10
	40%以下	1	2		1				4
表彰対象者割合	100%	5.0%	4.9%	1.2%			0.8%		2.2%
	60% or 50%	4.2%	2.9%	2.3%					1.7%
	40%以下	0.8%	2.0%		1.3%				0.7%

得点割合100% :局長表彰
60%or50% :事務所長表彰
40%以下 :表彰案件で照査技術者等として担務(一部地整のみ)

4. 成績評定点と業務成績評価との関係

2. において、業務成績評価は、技術評価順位と関係が深く重要な項目であり、適切な業務成績評価が必要であることが明確になったため、成績評定点と総合評価落札方式の技術評価の業務成績評定との関係を検討した。

図-3 に各地整の業務成績評価割合を示すが、4方式にかなり相違有り。表-3 に各地整の成績評定点の平均及び各方式での試算結果を示すが以下のことがわかる。

- ・ 各地整の成績評定点にかなり相違があり、自地整方式でも評価割合に相違。他地整方式を採用した場合でも相違有り。成績評定点の違いが、業務成績評価・技術評価に与える影響が大きいことが明確。
- ・ 業務成績評価は全国を対象にする場合もあり評価方式の相違の与える影響大。
- ・ 整備局間の成績評定点の平均化、業務成績評価割合のメリハリ化を進めることが必要。

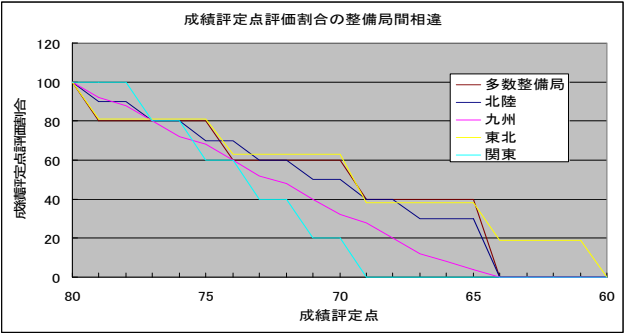


図-3 整備局別業務成績評価割合

表-3 整備局平均成績評定点と評価方式との関係

整備局	東北	北陸	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	平均	(最高-最低)
成績評定点	73.5	75.1	73.2	72.4	73.3	75.9	73.9	76.2	74.4	3.8
成績点評価方式										
自整備局方式	63	70	40	60	60	80	60	72	60	40
多数整備局方式	60	80	60	60	60	80	60	80	60	20
北陸方式	60	70	60	60	60	70	60	80	70	20
九州方式	52	68	52	48	52	68	52	72	60	24
東北方式	63	81	63	63	63	81	63	81	63	18
関東方式	40	60	40	40	40	60	40	80	60	40
(最高-最低)	23	21	23	23	23	21	23	9	10	

成績評定点 平均以上 平均以下
成績点評価 >80 >60 >40 >20 >1
81 整備局成績表転々を各方式で試算した場合の最高評価
60 整備局成績表転々を各方式で試算した場合の最低評価

成績評定点:日経コンストラクション 1022 号(2010)掲載データ

5. まとめと今後の課題

業務の総合評価落札方式簡易型の評価項目の分析により、「業務成績」評価の重要性、「優良表彰」の効果が明らかとなり、日頃の成績評定の重要性も明確になった。

今後、各評価項目の評価を詳細に行い、評価項目の削除または追加、配点割合の変更等による試算し、業務の総合評価落札方式の技術評価のあり方を提案したい。

参考文献

1) 吉田秀樹他：総合評価落札方式（業務）の低入札対策に関する一考察，土木学会第 65 回年次学術講演会